

令和 6 年度版「せいかつ上 みんな なかよし」「せいかつ下 なかよし ひろがれ」

複式学級における年間指導計画作成の留意点

①小規模・複式学級における指導計画作成の重点事項

- （1）生活科の目標と内容を確実におさえ、学年間で適切に関連を図ること
- （2）児童一人一人の実態に配慮すること
- （3）学校内外の教育資源を積極的に有効活用すること

②複式学級における生活科の学習形態

学習指導要領において生活科の目標及び内容は、2 学年共通で示されており、児童の情緒的側面や認知的側面での成長を把握しながら、効果的に単元を構成し、配置することを心がける必要がある。

複式学級においては、毎年共通で実施する同単元異内容異程度指導（同じ単元だが、扱う材や目標は学年で異なる）と、A・B 年度で学習指導要領に示された目標及び内容をバランスよく適切に配列した同単元同内容異程度指導（内容は同じだが目標は学年で異なる）など、多様な指導方法を児童の実態を踏まえ取り入れる必要がある。

このように学習形態を大きく 2 つに分けることで、2 年間を見通した学習活動の設定はもちろん、学年段階に応じた学習のめあてを適切に設定した指導が可能となる。

③年間指導計画作成上の留意点

- （1）学習活動や時間配当のバランスを工夫する
- （2）学年差や個人差を考慮した単元配列を工夫する
- （3）変則複式学級に対応できるよう指導計画を工夫する
- （4）複式学級の特性を生かす
- （5）全校児童や教職員、地域の人々との関わりを生かす
- （6）生活科を中心とした合科的・関連的な指導を取り入れる（スタートカリキュラム）

④複式学級の特性を生かした生活科指導の基本的視点

- （1）地域を活動や体験の場とし、個に応じた指導を展開する

生活科は「体験」と「表現」を連続的・発展的に繰り返すことで、気づきの質を高めていくことが重要とされている。教科書に載っている生きものや植物を、身近な自然から見つけたり、地域で生活する人々と実際に触れ合ったりすることで、地域の中で自分らしさを発揮しながら、自己の世界を自ら広げていくことが大切である。

一方で、生活科は体験活動における子どもの知的な気づきや情意的な気づきなど、一人一人を見取ることが難しい。この点、学級の児童数が少ない小規模校及び複式学級においては、個々の児童の活動や思考を見取りやすい環境といえる。児童の思いや願いに寄り添い、その実現に向けてサポートするといった、個に応じた指導の一層の充実が求められる。

（２）豊かな自然や地域の文化、伝統行事といった地域の材を生かす

小規模校においては、周辺に山や川、森や海といった自然環境に恵まれていることが多い。また、地域の文化財や伝統的な行事なども継承されていることが多く、これらは貴重な「材」となり、児童の体験活動及び表現活動が豊かになることが大いに期待できる。

しかし、大切なことは、教師が「材の魅力」に気付くことである。教師自ら地域に出向き、自然の豊かさを肌で感じたり、地域の人々と直接触れ合ったりする中で、地域を知り、地域への理解を深めていくことが大切である。地域の優れた材の価値を見出し、学校全体で共有する体制が求められる。

（３）地域とのつながりを生かす

生活科の学習で、秋を見つけるために学校周辺を散策していると、地域の人々と出会うことがよくある。すると地域の人々が、「〇〇〇〇〇〇に行ってごらん。どんぐりがたくさん落ちているよ。」と児童に地域のことを教えてくれる。児童にとって、地域の人々との関わりは、活動の幅が広がると同時に、学びや気付きの質を高めることにもつながる。

このような地域の人々との出会いの場面は、意図的・計画的に作り出すこともできる。そのためには、自治会やコミュニティ・スクールなどを通じて、児童の取り組みを地域の人々に知ってもらい、よき理解者・支援者となってもらうことが大切である。地域との信頼関係を構築し、学校と地域が一丸となって児童の学びを支える環境づくりが求められる。

（４）異学年で学ぶよさを生かす

複式学級で生活科を指導する場合、具体的な活動内容やねらいは、学年毎に設定されることが重要である。

例えば、４月に同単元同内容異程度で取り扱う単元「わくわくどきどきしょうがっこう」では、１年生は、興味津々で学校探検に出かけ、教室の役割や教職員の仕事内容などを見つけようとする。一方、２年生は昨年度に同じ学習をしているので、１年生の案内役として活躍したり、新たに赴任された先生へインタビューしたりする姿を１年生へお手本として見せてあげるなど、２年生は１年生をリードしたり、１年生は２年生に憧れをもったりできるような学習を位置付けたい。このような学習を繰り返すことで、１年生は、来年の自分の姿を想像しながら見通しをもって活動に臨むことができ、２年生は、１年生と関わり合いながら学習する中で、自分自身の成長について自覚することができる。相互が効果的に関わり合うことで、どちらの学年にとってもよい影響が生まれることになる。

⑤カリキュラム・マネジメントを意識した指導計画の作成

指導計画をもとに指導をした結果、「地域の資源を使えばよかった」「国語のあの単元と関連を図ればよかった」など、改善点が出てくることが多い。生活科を中心とした年間指導計画の見直しを、学校全体で行っていくことが大切である。また、年間指導計画には、地域の物的・人的資源などで活用できそうな資源を明記するなど、誰が担任になったとしても、効果的な指導ができるよう環境を整える必要がある。

令和6年度版「せいかつ上 みんな なかよし」「せいかつ下 なかよし ひろがれ」

複式学級における単元配列（案）

月	A年度 (45 時間)	共通 (60 時間)	B 年度 (45 時間)
4月		はじめの いっぱ ④	
		わくわく どきどき しょうがっこう ⑭	
5月			
6月	きせつと なかよし はる・なつ ⑫		まちが大すき たんけんたい ⑭
7月			
8月	なかよく なろうね 小さな ともだち ⑪	たいせつに そだてよう (きれいに さいてね わたしの はな) (めざせ 野さい作り名人) ⑩	めざせ 生きものはかせ ⑩
9月			
10月			
11月			えがおのひみつ たんけんたい ⑮
12月	かぞくにここにこ 大きくせん ⑩	つくってあそぼう・たのしもう (きせつとなかよしあき) (作ってためして) ⑮	
1月			
2月	きせつと なかよし ふゆ ⑫		
3月		明日へ ステップアップ! (もうすぐ 2年生) (あしたへ つなぐ 自分たんけん) ⑮	
学びのポケット			

複式学級における年間指導計画〈指導の留意点〉（案）

A 年度 (45 時間)		共通 (60 時間)	B 年度 (45 時間)
4 月		わくわくがいっぱい (4 時間) ○同学年の友達他に、異学年の友達とも、幼児期や昨年度の学校生活の思い出について話し合う。 ○学校生活についていろいろと教えてくれた2年生に、感謝の気持ちを伝える。 ○2年生は、1年生にしてあげられることを考え、朝の会や帰りの会、学習者用端末の使い方や学校生活の約束などを教えてあげる。 ○2年生は、上級生としての自覚をもつことで、進級したことを実感し、意欲的に学校生活を送ることができるようにする。	
		わくわく ときどき しょうがっこう (14 時間) ○2年生は学校探検の案内役として、リーダーシップを発揮しながら活動する。 ○2年生は、昨年度と同じ探検先ばかりにならないように、新たに探検したい場所を事前に設定するなど、目的意識をもって活動する。 ○2年生は、新しく赴任された先生に話を聞きに行くなど、昨年度と学習内容が被らないように配慮する。 ○2年生はこれまでの経験をもとに、横断歩道の安全な渡り方や地震発生時にとるべき行動について、1年生にお手本を示すことができるようにする。 ○2回目の学校探検では、1年生と2年生の学年チームに分かれて探検する時間を設定するなど、同学年での協働的な学びを保障する場面も意図的に設定する。 ○学校探検で気付いたことやわかったことを伝え合い、異学年で協力して「学校マップ」を完成させるなど、協働的な学びとなるようにする。	

5月	きせつと なかよし はる・なつ（12 時間） ○学校から野原や公園までの行き方や交通安全に関する約束などについて、1年生と2年生が意見を出し合いながら確認する。 ○草花遊びをする際、2年生は葉を切ったり、茎を結んだりする難しい作業をサポートするなど、1年生が安心して楽しく活動できるようにする。 ○1年生が見つけた春・夏の動植物について、2年生が解説をしたり、学習者用端末で記録したりするなど、それぞれの学年が目的や役割を明らかにしながら活動する。 ○地域に生息・生育する動植物ついて、地域の人に教えてもらうなど、地域の自然を生かした学習ができるようにする。 ○野外で活動する際、日向と日陰の地面温度の違いに気付かせるなど、理科の学習へのつながりを意識して学習を進めるようにする。 ○春・夏に行われる地域の行事について知り、可能であれば実際に参加するなど、季節の行事をみんなで楽しめるようにする。	たいせつに そだてよう（10 時間） （きれいに さいてね わたしの はな/ めざせ 野さい作り名人） ○幼児期や昨年度に栽培したことがある花や野菜、地域で栽培している花や野菜について話し合い、植物の栽培に対する興味関心を高められるようにする。 ○それぞれの学年が栽培する植物の種の特徴や発芽の様子などを比べながら観察し、花と野菜における共通点や相違点を明らかにしながら観察し、気付きの質を高められるようにする。 ○1年生は、植物を観察する視点や絵で表す際の色鉛筆の使い方など、2年生の姿を参考にしながら、表現の質を高められるようにする。 ○2年生は、昨年度花を栽培した経験をもとに、花の栽培について1年生にアドバイスができるようにする。 ○栽培方法について適宜振り返り、地域の人（野菜名人や農家等）から助言をもらうなど、植物の栽培方法について見直し、活動の質が向上するようにする。 ○全員で後片づけを行うなど、協力しながら学校園や花壇、教室などを清掃できるようにする。 ○全員で押し花や色水を一緒に作ったり、収穫した野菜と一緒に食べたりするなど、植物を栽培する喜びや達成感などを異学年で共有できるようにする。 ○これまでの栽培活動を振り返る過程で、花と野菜の栽培に関する共通点や相違点などについて話し合い、植物の特徴を見つけたり、生命を大切にしようとする態度を身につけたりできるようにする。	まちが大すき たんけんたい（14 時間） ○地域のお気に入りの場所や日々の生活でお世話になっている人について思い出したり、伝え合ったりして、これからの学習の見通しをもつことができるようにする。 ○みんなで行ってみたい場所について話し合い、行く場所や目的を明らかにする。また、交通安全に関するルールについては、2年生が中心となって1年生と確認し、安全に活動できるようにする。 ○地域にお店や施設などが少ない場合は、公共交通機関を利用し、まちの中心地まで移動することも考えられる。その際、公共交通機関の使い方やマナーなどについても学ぶことができるようにする。 ○お店や施設などを知ったり、働いている人に話を聞いたりして、自分たちの生活が地域のさまざまな人や場所と関わっていることに気付き、愛着や感謝の気持ちをもつことができるようにする。 ○カードなどに気付いたことや発見したことを表現し、異学年で伝え合い、協力しながら「地域マップ」を作成する。 ○お世話になった公共施設や地域の人に、お礼の手紙を書くなど、感謝の気持ちを表現したり、地域とのつながりを大切にしたりする気持ちをもつことができるようにする。
7月	なかよく ならうね 小さなともだち（11 時間） ○B年度の飼育活動での学びを生かすことができるように学習活動を工夫する。 ○幼児期や1年生の時に飼育したことのある生きものについて伝え合い、飼育する際に大切なことについて話し合う。 ○地域に生息する生きものを扱うなど、地域の環境を学ぶ場面を設ける。		めざせ 生きものはかせ（10 時間） ○A年度の飼育活動での学びを生かすことができるように活動を工夫する。 ○登下校やまち探検で出会った生きものを「地域生きものマップ」にして、生きものや飼育への興味関心を高められるようにする。 ○生きものを採集する際、地域の生きもの名人からコツを教えてもらう機会を設ける。
8月	○飼育方法について、適宜振り返り、地域の人（生きもの名人や酪農家、獣医師等）から助言をもらうなど、飼育方法について見直し、活動の質が向上するようにする。 ○児童一人一人が飼育に携わることができるよう、飼育する生きもの数や役割分担などに留意する。		○適宜、飼育方法を振り返り、地域の人（生きもの名人や酪農家、獣医師等）から助言をもらうなど、飼育方法を見直し、活動の質が向上するようにする。 ○児童一人一人が飼育に携わることができるよう、飼育する生きもの数や役割分担などに留意する。
9月	○飼育を通して気付いたことや感じたことを多様な方法で表現し、伝え合って、生きものの成長や命について実感できるようにする。		えがおのひみつ たんけんたい（21 時間） ○前回のまち探検を想起し、地域とのつながりやお世話になった人が増えたことに気付き、これからの学習の見通しをもつことができるようにする。

